

第3回金ヶ崎周辺整備構想策定委員会

<目次>

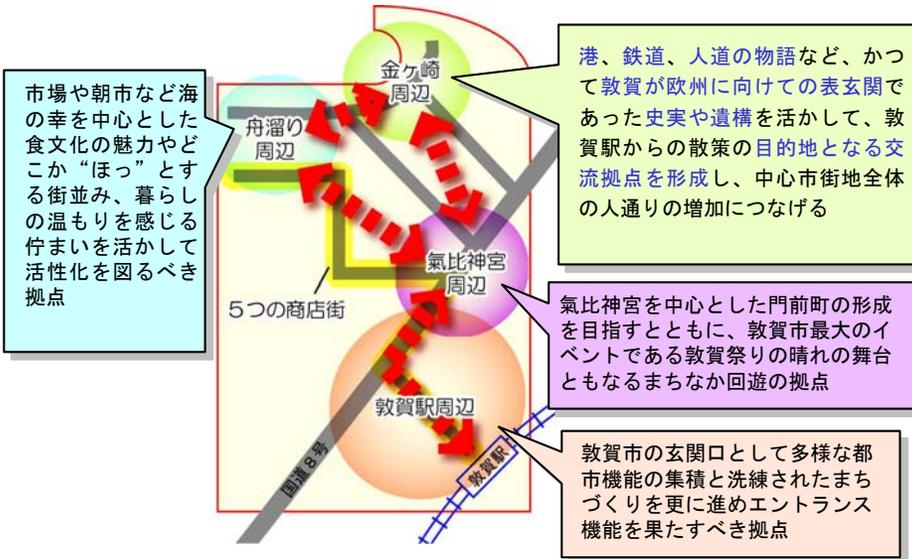
1.全体コンセプト	P2
「鉄道の夜明けと人道の港 敦賀 ～敦賀ノスタルジアムの創出～」	
2.金ヶ崎周辺まちづくりの計画条件	P3～4
3.「敦賀ノスタルジウム」の空間デザインコンセプトの検討	P5
4.プランニング内容	P6～7

平成23年11月30日

1.全体コンセプト「鉄道の夜明けと人道の港 敦賀 ～敦賀ノスタルジアムの創出～」の確認

1 金ヶ崎周辺に求められる役割

- 敦賀市の中心市街地は、先人が永い年月をかけて積み重ねてきた歴史文化の集積があり、歴史的建造物や伝統的な祭事など、市民にとって**敦賀市への愛着や敦賀市に暮らすことの誇り**を醸成する資源が詰まっている
- このため特に歴史文化や都市機能の集積度が高い**金ヶ崎周辺を含む4つの拠点と商店街の相互連携**による**中心市街地活性化**を図ることが重要
- 中心市街地に対する市民の愛着と誇りを醸成するためには、金ヶ崎周辺の**港、鉄道、人道の物語**など、明治後期～昭和初期にかけて**敦賀が最も輝いていた時代の史実や遺構を保全し、市民に広く周知**することが重要
- また、敦賀駅から中心市街地全体への回遊を誘導するためにも、来訪者が**氣比神宮**で折り返さず、さらに足を延ばすように、これらの**既存ストックを活かし、回遊の目的地としての金ヶ崎周辺地区（駅から約2 km）の魅力向上**が重要



2 特性と整備構想の視点

- 金ヶ崎周辺は、明治後期～昭和初期にかけて、**欧亜国際連絡列車と欧亜国際連絡船の中継地**であり、ヨーロッパと向き合う**日本の表玄関の一つ**であった。
- チャップリン（喜劇役者）、ロアルド・アムンゼン（探検家）、ブルーノ・タウト（建築家）など著名人も金ヶ崎でアジアへの第一歩を踏んでいる。
- この時代が、**敦賀市の歴史上、最も輝かしい時代の一つ**であり、金ヶ崎周辺には洋風建築物が建ち並び、盛装してステッキを持った男性やバラソルを差した女性らが往来するなど、**モダンでエキゾチックな街**であった。**赤レンガ倉庫やランプ小屋、線路**などは、**当時の雰囲気**の一端を今に伝える遺構である。
- また、ポーランド孤児やユダヤ人難民の救済に向けて市民らが手を差し伸べたエピソードが**「人道の港 敦賀」**の物語として伝え継がれており、誇るべき郷土の美談、受け継ぐべき先人の尊い精神である。敦賀上陸によって辛くも難を逃れたユダヤ人難民らは、敦賀の地を**「ヘブン（天国）」**と呼んで深い愛着の念を示したことが伝わっている。

欧亜国際連絡列車と欧亜国際連絡船の中継地であった鉄道棧橋



100年前に敦賀に上陸した外国人達も目にしてきた赤レンガ倉庫



- 金ヶ崎周辺の整備にあたっては、市民の**愛着や誇りの醸成、ゆっくりと時間を過ごせる快適な空間づくり**を目指し、歴史的な遺産である**赤レンガ倉庫、ランプ小屋、線路の保全**や今の時代に合った**新たな価値の付加、「人道の港 敦賀」の物語を強く意識した整備を進める。**

敦賀港に上陸した外国人観光客（大正初期）



3 全体コンセプト「鉄道の夜明けと人道の港 敦賀 ～敦賀ノスタルジアムの創出～」

- 金ヶ崎周辺には、敦賀の最も輝かしい時代の遺構やエピソードが十分に光を当てられないままとなっている。単に過去の栄華を偲ぶだけでなく、**未来に向けて市民が誇りを持って歴史をつないでいくため、先人が残した資源の保全や復元、エピソードをモチーフとしたまちづくりを進める。**

鉄道の夜明けと
人道の港 敦賀
～敦賀ノスタルジアムの創出～

ノスタルジウム

ノスタルジー

明治後期～昭和初期の敦賀港の雰囲気

ミュージアム

港と鉄道の歴史を知り伝える場所

- 「**アジアとヨーロッパを結ぶ港**」として活気にあふれ、また、「**人道の港**」として博愛精神にあふれていた、明治後期～昭和初期の**敦賀港と鉄道の歴史**を後世に残し、**広く市民や来訪者に伝える場とする。**
- 特に「**人道の港 敦賀**」として、当時ポーランド孤児やユダヤ人難民の救済に向けて善意の手を差し伸べた市民の精神を受け継ぐべく、「**おもてなしの心**」で来訪者を温かく迎える。

2.金ヶ崎周辺まちづくりの計画条件の整理①

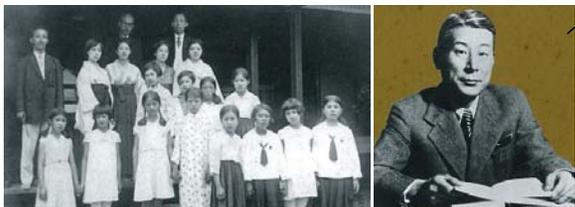
資源や史実を生かす

海路と陸路の中継地点、東洋の波止場(オリエンタル ワーフ)と呼ばれていた鉄道棧橋周辺にドラマが生まれ、現存する赤レンガ倉庫、ランプ小屋、線路が歴史を今に伝えている

○埠頭、棧橋まで鉄道が伸び、駅だけでなく、税関や商船会社の洋風建築物が建ち並んだ



○金ヶ崎周辺は西欧からアジアへの玄関口であり、埠頭、鉄道棧橋は多くの人々がそれぞれの胸に様々な想いを抱きながら行き交った



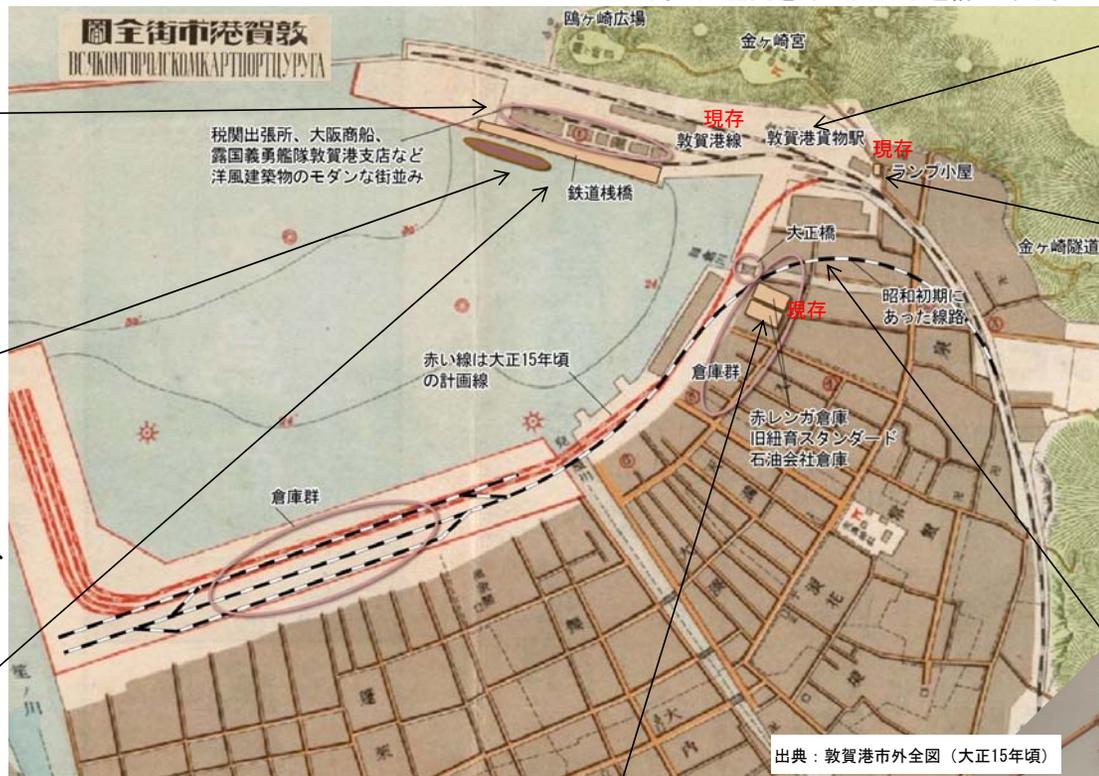
○シベリアに残されたポーランド孤児やユダヤ人難民たちも金ヶ崎周辺を入口にして日本へと逃れてきている。



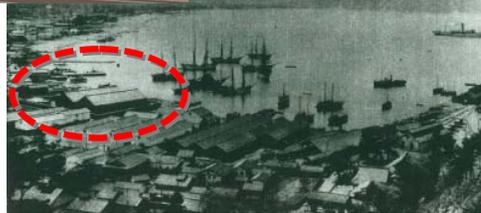
当時の敦賀の人々の彼らに対する思いやりのあるもてなしの様子など心温まる物語が伝えられている。

その中の一つとして、少年がりんごなど沢山の果物が入った籠を置いて行った逸話は、敦賀港駅近くでのことと伝えられている。

○休止中の線路は、港と鉄道で栄えた金ヶ崎周辺の歴史を今に伝える遺構である。



○ランプ小屋も100年以上前から列車の運行に欠かせない施設としてこの地に建っている貴重な近代化遺産である。



○敦賀港からは人だけでなく多くの物資が出入りしており、港周辺には倉庫が建ち並んだ。旧紐育スタンダード石油会社の赤レンガ倉庫は、その中でも大きなもので、当時、金ヶ崎周辺に上陸した人々が見た風景を形作った建造物であり、当時の人々と現代の我々をつなぐ重要な資源である。

○昭和初期には赤レンガ倉庫前を通る支線「敦賀新港線」があった。



2.金ヶ崎周辺まちづくりの計画条件の整理②

金ヶ崎周辺まちづくりの基本的構造

【金ヶ崎周辺まちづくりの基本方針】
 ○既存ストックや史実など金ヶ崎周辺ならではのまちづくりの資源を活かして、**居心地の良い空間、魅力的な空間を形成**

「敦賀ノスタルジウム」の実現に向け特に重要な要素、活用すべきもの

①金ヶ崎周辺の最も輝かしい時代、そして人道の港敦賀を象徴する場所
 ・歴史のロマンや後世に誇るべき博愛の精神を感じ、伝え継ぐのに最もふさわしい場所である。

【かつて鉄道棧橋であった区域
 -プラットホーム～乗降船場】

古き良き時代を感じるゾーン

②明治後期～昭和初期にかけての建築物や遺構で現存しているもの

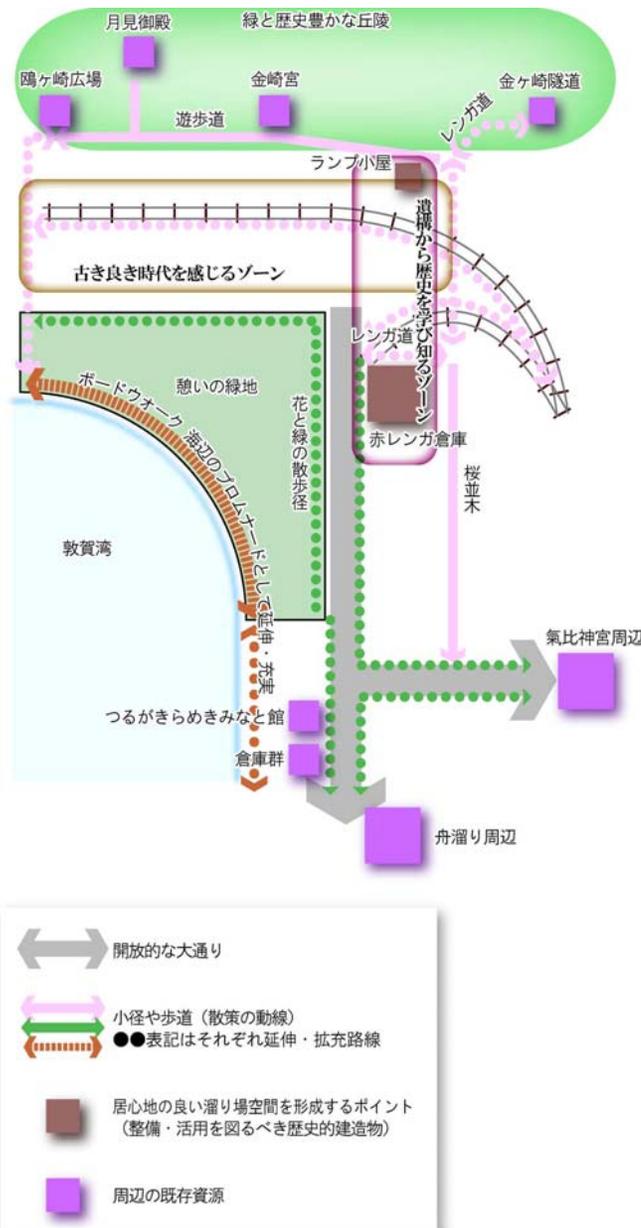
・当時から金ヶ崎周辺での出来事やまちの移り変わりを見続けてきた建物等の圧倒的な存在感や独特の雰囲気や保全しながら、金ヶ崎周辺の歴史を伝え継ぐ施設などとして活用すべきである。

【赤レンガ倉庫、ランプ小屋、線路】

遺構から歴史を学び知るゾーン

・これらの要素を**保全、活用**、あるいは**効果的な演出**を加えて魅力を高めるとともに、**居心地の良い溜り場空間の形成**と全体をつなぐ**回遊性の向上**を図る。

金ヶ崎周辺まちづくりの基本的構造模式図



人々にとっての居心地の良い空間構成の要素

大通りと歩道のつながり

開放的な大通り

・広幅員の港湾道路（都市計画道路築港線、敦賀駅港線）は、近隣の交流拠点である気比神宮周辺や舟溜り周辺と連絡するメインストリートとして、港まちを感じさせる開放的な雰囲気づくりや花や緑で彩られた歩きやすい環境づくりを目指す。

小径や歩道

レンガ道

・100年以上の歴史を有するレンガの建造物である赤レンガ倉庫、ランプ小屋、金ヶ崎隧道を結ぶ道は、分かりやすい演出による回遊性の向上を目指す。

大通りの歩道

・花と緑による演出や沿道の公共施設での公開空地の創出などによるゆったりと快適に歩ける回遊空間づくりを目指す。

花と緑の散歩道

・大通りの歩道から続く緑地内の散策ルートの一つとして、花と緑で彩られたゆっくりと歩ける散歩道の創出を目指す。

ボードウォーク

・舟溜りに向けた延伸やベンチの設置などにより、視界いっぱい広がる敦賀湾を堪能できる快適な海辺のpromenade（散歩道）としてゆっくり歩ける散策環境の形成を目指す。

遊歩道

・レンガ道や桜並木と連絡し、港まちの眺望を楽しみながら周辺の資源を回遊できる遊歩道の形成を目指す。

桜並木

・レンガ道や大通りの歩道、遊歩道と連絡し、花見の時期には桜の名所金ヶ崎宮までの散策を誘導する回遊空間の形成を目指す。

線路

・金ヶ崎周辺と敦賀市の発展を支えた鉄道の根幹である線路を活かし、古き良き時代を感じながら歩くことができる回遊空間づくりを目指す。
 ・舗装やプレートの埋め込みによって昭和初期にあった線路の一部の位置を分かりやすく明示する。

溜り場、街角

赤レンガ倉庫

・1905年からこの地に立ち、金ヶ崎周辺の歴史を見続けてきた赤レンガ倉庫の独特の雰囲気を活かし、地域の歴史に触れるミュージアム機能や、飲食・休憩機能の導入を目指す。

ランプ小屋

・当時の鉄道の運行には欠かせない役割を果たしていたランプ小屋は、当時の姿への復元やランプ小屋に因んだ展示機能の導入、周辺の緑化等、貴重な地域資源にふさわしい見学環境づくりを目指す。

オープンスペース

憩いの緑地（金ヶ崎緑地）

・敦賀湾と歴史的な遺構の中間に位置するオープンスペースとして、子どもからお年寄りまで誰もが居心地の良い溜り場空間を随所に形成することを目指す。
 ・北側に隣接する県有地との一体化や飲食機能の導入を図る等、ゆっくり楽しめる空間づくりを目指す。

3.「敦賀ノスタルジアム」の空間デザインコンセプト

「敦賀ノスタルジアム」を感じさせる空間とは？

「敦賀ノスタルジアム」を感じさせる空間とは？ 明治後期～昭和初期の金ヶ崎周辺の歴史や雰囲気を将来に伝え継ぐためにどのような空間づくりをすべきか？

○現存する当時の遺構を保全・活用 + 当時の雰囲気を象徴するものをセンス良く配置するなどさりげない演出をすることにより、来訪者の想像力に訴えかける空間づくり

○現存する当時の遺構を保全・活用 + 当時の雰囲気をなるべくそのまま具体的に再現する空間づくり

A 既存の歴史的建造物など往時の雰囲気を感じさせる資源を磨き、さらに価値を高めながら、花や緑で彩られた快適な回遊空間でネットワークし、魅力ある港の広場・公園として拡充する

緑の公園案

考え方

・プラットホームの復元やかつて線路があった場所の明示、ポラード孤児やユダヤ人難民が降り立った地点の明示、リングのエピソードなど数々のドラマに因んだ空間演出を金ヶ崎周辺にちりばめ、来訪者が往時への想いを馳せながら快適に散歩できる回遊ネットワークを形成する。

特長

・来訪者自らが想像力を活性化させることによってワクワク感を味わうことができたり、今の風景と往時の風景イメージを想像の中で重ね合わせることで、永い時間の流れをより実感できたりするなど、知的好奇心を満足させることができる。
・緑豊かな公園を基調としたさりげない整備を行い、現代の街並み、風景とも違和感のない空間整備を進めることができる。



楽しく歩ける回遊空間

昔のレール位置を明示



金ヶ崎緑地や後背の丘陵地と一体となった緑豊かな公園を基調としたさりげない整備



昔の建造物の基礎部分を復元



昔のプラットホームを復元

B

波止場や駅舎など、往時の雰囲気を象徴する核となる建造物を復元することによって、いわばノスタルジアムタウンを新設し敦賀に新たな出会いと交流の拠点を創出する

まちなみ再開発案

考え方

・往時の雰囲気を象徴する場所を核として、雰囲気をそのままに街並みの一部を復元することで、来訪者に直接的に五感でノスタルジーを感じさせる。

特長

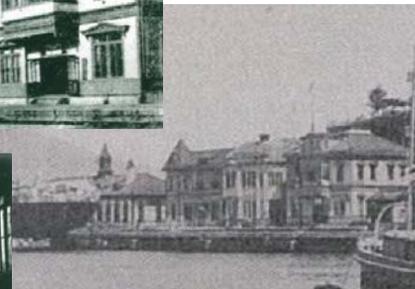
・具体的に目に映り、手に触れる形で復元するため、誰にでも往時の雰囲気が分かりやすく、伝わりやすい。
・再開発により特徴的な街並みが形成されるため、その一角は周辺の風景とは趣が異なり来訪者の目を引く名所となる。
・建物内部などを展示や交流、飲食機能などの空間として活用することができる。



再開発による街並み創出事例



金ヶ崎周辺の往時の街並み



4.プランニング① A案(緑の公園案)

・プラットフォームの復元や蒸気機関車の移設、食堂車による飲食機能の導入など、欧亜連絡鉄道が運行していた雰囲気を感じられる演出、花と緑による潤い豊かな空間づくり

・金崎宮や鴛ヶ崎広場など周辺との回遊性を高める周回ルートの形成

・ポーランド孤児やユダヤ人難民の上陸地点の明示など人道の港 敦賀に因んだ空間演出

・ランプ小屋の保全・修景、展示機能の導入や周辺的环境整備

・オープンスペースを活かした交流空間の創出、リンゴのエピソードに因んだ空間演出や記念植樹

・かつてあった線路の位置を舗装等で分かりやすく示す

・赤レンガ倉庫と金ヶ崎緑地を緑の丘でつなぐ

・舟溜り周辺に向けてボードウォークを延伸し、快適な海辺のプロムナードを創出、回遊ネットワークを形成

・花や緑によるシンボリックな沿道景観、快適に歩ける歩行空間の形成

・桜の名所金崎宮までの桜のネットワークの形成

・赤レンガ倉庫の保全・修景、展示や飲食機能、美術館などの導入による活用

・金ヶ崎緑地の散策環境の充実（子どもからお年寄りまで誰もがゆっくり時間を過ごせる環境整備）
 県有地との一体化、カフェなど飲食機能の導入

海際のベンチ

つるがきらめきみなと館

倉庫群

回遊性の向上

舟溜り周辺

気比神宮周辺

実際のベンチ

交流広場

赤レンガ倉庫

リンゴエピソード

人道の港 敦賀

金ヶ崎緑地

金崎宮

プラットフォームの復元

食堂車

蒸気機関車

ポーランド孤児

ユダヤ人難民

上陸地点

人道の港

敦賀

因んだ空間演出

ランプ小屋

環境整備

オープンスペース

交流空間

創出

リンゴのエピソード

因んだ空間演出

記念植樹

かつてあった線路

位置を舗装等

分かりやすく示す

赤レンガ倉庫

と金ヶ崎緑地

を緑の丘でつなぐ

舟溜り周辺

に向けて

ボードウォーク

を延伸し

快適な海辺

のプロムナード

を創出

回遊ネットワーク

を形成

花や緑

によるシンボリックな

沿道景観

快適に歩ける

歩行空間

の形成

桜の名所

金崎宮

までの

桜のネットワーク

の形成

赤レンガ倉庫

の保全・修景

展示や飲食機能

美術館

などの導入

による活用

金ヶ崎緑地

の散策環境

の充実

子どもから

お年寄り

まで

誰もが

ゆっくり

時間を

過ごせる

環境整備

県有地

との

一体化

カフェ

など

飲食機能

の導入

4.プランニング② B案(まちなみ再開発案)

・欧亜連絡鉄道と欧亜連絡船のターミナルであり、様々なドラマが生まれたであろう鉄道棧橋における明治後期から昭和初期の街並みの一部を復元し、展示機能や飲食、小売り機能の導入を図る。



・金ヶ崎緑地の散策環境の充実（子どもからお年寄りまで誰もがゆっくり時間を過ごせる環境整備）
 具有地との一体化、カフェなど飲食機能の導入



・ランプ小屋の保全・修景、展示機能の導入や周辺の環境整備



・レンガ造の建造物を結び分りやすい散策ルートの形成



・赤レンガ倉庫の保全・修景、展示や飲食機能、美術館などの導入による活用

